

# プレゼンテーション活動における評価項目 学習者自己作成の試み

## —学習プロセスに自律的評価活動を組み込む実践事例—

佐野 香織

科目名：総合日本語 6

レベル：初級 1・2 / 中級 3・4・5 / 上級 6・7・8

履修者数：20名

### 1. 学ぶプロセスに評価活動を組み込む背景

筆者は他機関において、学生が評価項目作成から参加し主体的に学ぶ活動実践のデザインを試みてきた（佐野，2010等）。評価が教員から一方的に示されるだけの場合、学生はその評価項目の妥当性をよく吟味せず、教員評価項目が「できた／できなかった」ことに終始してしまいがちである。その結果、全員同じような個性のない成果で終わることに懸念を感じていたことが実践の背景にあった。しかし、実践を試みるうちに、次のことが分かってきた。それは、①教員が設定する目標や評価基準だけではなく、学生が主体的に自分で自分の目標や評価項目を考え、自己・他者の評価活動を学習プロセスに組み込むことで学びにつながる事、②対話的に評価を行うことは、学習者が自律的、協働的に学ぶことにつながる事、の2点である。こうした学ぶプロセスそのものに評価を組み込む実践は作文教育実践（原田ら，2017）においても見られる。

### 2. 「総合日本語 6」におけるプレゼンテーション評価活動

本実践は総合日本語 6A クラス筆者担当日に行った。総合日本語 6 では、作文・プレゼンテーション活動においてルーブリックによる評価を行っている。総合日本語 6 では「同レベルを教える教師が学生を評価する際の統一的な指標になる」「学生にとって目指す成績評価の着地点が分かりやすい」という側面から、ルーブリックの導入・活用している。使用するルーブリックは、コーディネーター教員が整備したものである。本実践では、発表活動において、学ぶプロセスそのものに評価活動を組み込むことを目指し、成績評価とは別に、学生が自分の評価項目を考え、他者・自己評価をする活動を試みた。

### 3. 実践の目的と方法

総合日本語 6 では、担当教員 2 名によるチームティーチングを行っている。本実践は、期末発表プレゼンテーションを対象として筆者担当日に行った試みである。

【発表1週間前】：期末発表の評価についての説明を行い、ループリックの確認をした。そして、「今学期の期末発表で自分が目指したいと思うこと」へのチャレンジを呼びかけ、全員がチャレンジをすることになった。その後、「期末発表で自分が目指したいこと」を各自3項目書き、なぜその3項目を目指したいのかについて話し合った。発表当日、この3項目は、項目作成者自身の発表評価項目に加わることで、3項目の評価はクラスメートと教員が行うこと、発表者自身もこの評価項目を使って自己評価コメントを書くことを確認した。また、この3項目による評価については、成績評価には入らないことを示した。

【発表当日】：発表者が書いた「期末発表で目指したいこと」3項目に基づき、発表者向けに聴き手がコメントシート記入。自分の発表後は自己コメントを記入した。

【発表後】：希望する学生に筆者とのふり返りセッション、インタビューを行った。

#### 4. 学習者の評価項目自己作成と今後の課題

筆者とのふり返りセッション・インタビューを行った学生は、本実践について、「先生は（学生が目指したいと思っていることに）注目してくれないが、今回は目指したいと思っていることを自分で決めることができ良かった」、「発表の成績評価はあまり気にならないが、自分ができるようになりたいことについて他の人はどのように思っているのか知ることができた」等の経験を得ていた。また、「以前の目標を思い出し、そして今のこと、次に将来の目標について、今までの学習を通して考える機会となった」ことをふり返っていた。同時に、教員が評価に用いるループリックについても「何が足りなかったのか、どうすれば前よりもよい評価になることができるのか、アドバイスを聞きやすい」等、ループリックによる評価の必要性も感じていた。学生は授業で学んだことへの明確な評価を教員から受けながら学ぶのと同時に、自律的に自分が目指す目標や着地点を持ち、他者・自己評価を通して学ぶ姿も見られた。しかし、インタビュー協力者からは、こうした気づきはふり返りセッションがないと難しいとの声もあった。今回の実践では、クラス内でふり返り活動を行うことができなかったが、今後もこの試みをもとに、学ぶプロセスに評価を組み込む実践を考えていきたい。

#### 参考文献

- 佐野香織（2010）「大学院生の実践評価を考える—ブログプロジェクトにおける評価基準作成活動を通して—」『第23回日本語教育連絡会議報告論文集』23巻，108-112。
- 原田三千代・浅津嘉之・田中信之・中尾桂子・福岡寿美子（2017）「ループリックを用いた記述式内省活動の分析—大学・留学生教育機関のアカデミック・ライティングでの試み—」『2017年度日本語教育学会春季大会予稿集』142-147。

（さの かおり，早稲田大学日本語教育研究センター）